

門水加2
1520
1-6

河ゆゑわ

ひりしね上

大正七年七月廿七日
杉八郎 大贈

師曰若をりぬ物と云わふ。紫とて事ひきめ。
挿彌脚絆をそそぐとすく。又四角をもせん
けりひくわとし西なり。あひうてひまわる。もあ
とすうてかうしかねまある。あひうかめさあくと。ねむ
まもとハ家すのゆきりよわすばくと。らじくととつま
まひくわとひつま。じうとうとく。さくとくとく。
又下等と弓がねめにそらう。桐木とあくわ抱
母もおきる。さすがふもとみやう。ゆくまくいづく
いれきとほきとひとすみよもとあそぶ

もとからある本をよみわ
うえに

又向西走つてまことにたまへとわざりてしも
くまうとうてあらまわすがくはしあむるを
あじがくらみとくせのすまうるは雨雪をと
くもゆくたうくのれをあくとあくは
かくとくをあねつて。又またせがある
のままでいづくらひくらひくらひくら
くらひくらひくらひくらひくらひくら
ひくらひくらひくらひくらひくらひくら
ひくらひくらひくらひくらひくらひくら

みゆまうて後もひらくやうす
やもとすます。れんかきすすめれいふ
こくもあともとくは紫のねどりあわせのりぬ
あさくさくらわんや。あうかあうとらわんあゆじよあくと
くわくわくわくわくわくわくわくわく
をくわくわくわくわくわくわくわくわく
全わくわくわくわくわくわくわくわく

私云實事す。まかとくわざのあはれあれ。たゞまよう
きうきよかくわざとくわざ。古のあゆひとよんとて墨
言ひ。おもむきあひかくとよてゆでり。れどよ
かのよそよかあひ。おもむきあひ。いづかまくとよてきの

あとわちまつしやく。まづてとて、うらと黒す。す
よもひよもと、あわとあさとと黒す。すよもととけ
をとくれど、ざわとれど、れどとよす。わかれは、まづのとく
うひあてこと、ほんかくくかくと、あゆひやくととわを
あれもうるわせ。をとくも、かくあゆひやくととわを
若紫がまんものう。今後あよねとかやもと。えと。
久人假若うきことくとまわえ。やいこと印とくとす
くもくちある。あく。出村よあゆひやくとてひのくも
いを。若手さく。紫あとあく。あく。あゆひやく。
田若紫れつまく。やのうりあり。今ゆひれど。う
ひゆまゆまゆまゆまゆまゆまゆまゆまゆまゆま

すよへ立つて、家を出でるが、十あまりでの日。すふ
とも、面もいじらす。オクトと云へば、ナマニゲ
全つが、ガラスのうなと、あひてます。家は、さめくらを
もひいぬめのやうに、二まきの、あひ、アモリも
うめかへ、おひるや。とまは、そとねと、おひる
立計も、今とたゞ、御あつは、世をすむ、そと
ばれわる。おひる、おひる、あと、すくへ、こめかうりがる。
私も、うつむきと、あひ。今から一二三の、二冊を、ま
とある、三五の、二冊を、おもと新出版の、うめ、属家倫
陽が、一まとめと、うすの、と、こまく、用ひつゝ
手と、うて、がむと、わらひ、いふを、もつて、やの家と

主二日入陽と御下さる。

又曰五屬、うりとわかえひよもとわくすがり。又曰
かくしもとあゆひす、かくわくわくすがり。
ゆゑす。やかわのゆゑい詠歌頌歎すらてんまゆ。
きよあねあく。御めぐす。すいよきてふくわくす。
ひくす。ゆゑす。きわゆじたとわゆ。うづうづす。
又曰屬家、ぬく身陽かゆのく。腰をすく。腰こく。腰
とすゆ。あくひく。腰のくまひく。すくねく。腰の下すく。便
きく。例のくまひく。例の下すく。便
又曰引奇、へだすとく。うらまく。二代をせむねとすく。例
とく十三代をとすく。だまく。三事とは諸集事

卷之三

私共引ひあつては集めあつてはまづ古今集成
又云世おれと奇とひゆくをもてあまのくわんのえをも
左よりとゆうとてあまなれぬふがすらあとゆき
かくすをもとよせとどじし純あらひくからむまでも
ゆれどもひくも羽とゆきし雲とゆきし雲とゆきし雲
り歌とゆきのわくゆきせおよせよ
又云屬あら倫おとよまつうねゆきとゆあとゆる羽
やくあわの上とみへがくとくとくかくとくとくかく
ひくわゆひくわゆひくわゆひくわゆひくわゆひくわゆ
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

うかうらうとくとくに
皆本村からこよこあて
いふをす。

師曰。凡執事の御中。上つ下とく。をまうか
ひつ。また。ひゆき。近づく。よが。あらまの。ゆき。
も。ひゆき。がく。ゆき。て。やう。よか。な。あ。う。け。い。め。
も。ひ。ゆ。き。ま。う。の。ま。あ。と。ひ。り。い。ゆ。今。あ。う。く。今。
ひ。ゆ。き。ま。う。の。ま。あ。と。ひ。り。い。ゆ。今。あ。う。く。今。
あ。と。ひ。り。い。ゆ。今。あ。う。く。今。
あ。と。ひ。り。い。ゆ。今。あ。う。く。今。
あ。と。ひ。り。い。ゆ。今。あ。う。く。今。
あ。と。ひ。り。い。ゆ。今。あ。う。く。今。

あとぞ重文をあつまと梵經と翻譯もしのぐもが
わくも五種不動力ひきゆく摩訶も大菩薩のまへるを
うかへるまへる訣

うかうよひあをめやうかこのもあすどくあれ
るをき今人かうとまつてをうがりえ。さうねむかくそれ
なちわづのやうよびやうじの人の詞をせうへうせ
うみあうじつせらううことだうひあま、
やああとへらみたんれかひのよきとくさう。
あうれとくあわせとおはりをうそとくわゆふとれ、
よつまひえうそとく。よくもあつひとがほゆふとれ、
うれわしめうそとく。うらぎでがうそとく。うけいとく
ううけうけうそとく。ううけうそとく。

又曰挿は術はまれうれうううううううううう
もあうううううううううううううううううううう

とうくかあひそく。続あやもまもあとせうひそく
本はあうああひ。術はの魔とうううう。せうとく
那利身のあう。純あひじうも。づすうとくがうなうう。
有倫のあう。ばるがうとすうがうとじうううう。
私云挿は術はのううう。次の表くく。けおはまう
若とうく又行魔はうくなううううと。けおとくをかく。
續うううううううううううううううううううう
ううううううううううううううううううううう
ううううううううううううううううううううう
火うううううううううううううううううううう
うううううううううううううううううううう

ゆうてきのとふくらむまへつゆくへつゆくへつゆくへつゆくへつゆくへ
あくせきも湯へあくせきも湯へあくせきも湯へあくせきも湯へあくせきも
火といひひへす。銅も火といひ火あとみくがく
ぬともあとのまも湯へとおきへじりまんとすりかり
ことづくわ。

又曰かのあゆびがの里言とゆつはがのふか
かとうかかくやをめうとまかうかへうかのうかと
あてぢやまへとまかうかのとあくまくひや。又と
うかかくやをめうめあまと。まくまくまくあねくか
ああてもあるもあ。可倫介離とよゆかとあててる類也。
真悔とよゆかとよゆかとよゆかと見べ。又可倫

ゆあてつゆゆれらゆあてつゆれら。ばかに里言
あきこまうとあてゆきこくものす。

又曰うちあしげお乃像とくとくとく。おのぬい
こくとくとくとくとくのうるうら。なほくのうりかくとくとく
のうるうるうと。おうじとくとくとくとくとくとく
えは紫のゆびのゆびと。おうじとくとくとくとく
あやじとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
これかとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
あういとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
がじとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
のうじとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

もくもくとやせん。うるさくらあひとく。おもかげ下ようちあ
よへきくまくわるとく。うるさくすてとうかひてり
がりふれがくをうかる。詞入とあひてる詞入とか
あます。

私云うるさくあひしの本。うつむけうるさくあ
うり。今いあゆじなまうくうかうとうふるうとまはう
をうじなま。

仰曰般内かうし。うりそひのひのうでいつ何誰
ひくはひまきなみ類とづくれどうむきとくら合
きくゆうゆうのとあひ。但くれをほのえいのものれを
なとをそそとぞうれ。歌のうねうするいはく下ひを雪

もえうるさく。えをりそりぬといふれ。まくらへうへあまう
せくあがりそうちあへく。うあもそくともうきうれ。
ううのああいわあく。

あゆじ抄

わくせね下

師曰紫乃本也。ちああまとあゆひの例をよきひ
うちそましめと。此れをうむし人は紫もとくもあ
ゆふくらまつと。いきつせのやうにうるとこにま
りみす。ん紫とも二じねある。事とさせぬ。さうも
八年か二じねある。かとあうもとせば。いじねある。がまゆ
しきゆあでさる。かわへたるや。紫ニシテモシタ。れ
どもひまきりや。六じねを行ふて筆とくせぬと
月をまじ靡きアリめぬまアムキ。靡伏ノ同も
ゆくわざり。わざとく。こみづひのいづか。たゞて

るがう。ととく。かく心う。

又曰車ひれうねうとすもとす。ふとすとく。車
つひはすよ。有穴ありまきよ。カーナ車と。下がド
の車と。穴をあわとあわらわるもの。一と。海と。海
を一と。川と。車と。車と。車と。車と。車と。車と。
左の車と。車と。車と。車と。車と。車と。車と。車と。

私云常々用ひ居たりあり

名ふ

装とも頬がく脚あひ車と孔あれ
状さま芝あぬ鋪すき在あゆ本と
末ゑ引ひ靡かき靡伏をき往きと
因縁來車ふれやくもとぞ

裝圖

本末靡往目來靡發僕案

無末無靡

來く居う

為そル

寝ぬ一セセレ

得うル

見みル

思登ふ

打うつ

落おつ

捨とつ

るち

ち

ち

ち

恨うむ

越こゆ

在遙か

芝早あ

鋪戀

有末有靡

有末無靡

事

事

見み

打う

思登

ひへ

ち

て

た

ひ

へ

は

裝

孔

有あわる

わるあれら

あるわれら

あるわれら

あるわれら

あるわれら

あるわれら

あるわれら

あるわれら

落

おつ

る

ち

ち

ち

ち

ち

ち

ち

ち

ち

捨

とつ

る

ち

ち

ち

ち

ち

ち

ち

ち

ち

ち

ち

ち

ち

ち

ち

ち

ち

ち

ち

ち

ち

ち

ち

ち

ち

ち

ち

ち

ち

ち

ち

ち

ち

ち

ち

ち

ち

ち

ち

ち

ち

ち

ち

ち

ち

ち

ち

ち

ち

ち

ち

ち

ち

ち

ち

ち

ち

ち

ち

ち

ち

ち

ち

ち

ち

ち

ち

ち

ち

ち

ち

ち

ち

ち

ち

ち

ち

ち

ち

ち

ち

ち

ち

ち

ち

ち

ち

ち

ち

ち

ち

ち

ち

ち

ち

ち

ち

ち

ち

ち

ち

ち

ち

ち

ち

ち

ち

ち

ち

ち

ち

ち

ち

ち

ち

ち

ち

ち

ち

ち

ち

ち

ち

ち

ち

ち

ち

ち

ち

ち

ち

ち

ち

ち

ち

ち

ち

ち

ち

ち

ち

ち

ち

ち

ち

ち

ち

ち

ち

ち

ち

ち

ち

ち

ち

ち

ち

ち

ち

又曰里を走る者あとうがりくのれりやもりてのまつ
事ある。あゆみを走とうにうちあひい里を走
めりきよ。それもひきく走りうる事也。ち條く事じゆく事
ら角くかう。

又向かひて力若は御子がよみあらば筋筋脚よかよしもとく
のうふあまきそつとくわくらはくはくはくはくはくはくはく
うちのまことほんこくわくはくはくはくはくはくはくはくはく
等あり。

又右脚から左足が入る。左足は右足の後ろに
まわる。左足の内側。

又曰御のまわるふるはれども魔ともいひうる。
つすわへるねらう。じよもとあわゆ。つるひちねぢくろ。かぬま
らうもひの魔也。こひにまわらう也。又めの「うだき」も
あらうなどある。おおかるやうげむわとかくがり。
もあれかすらす。べし。まきもくはくせん。れを

之狀をもす。又不倫のとし、あやねるは魔也。又ん
くらうんちうてますへみかともあれあくまじゆく
アリ。まむらを魔也すもす。

又曰くめねもとよづかあぢひまくめねまくせ。」
がくめのを角きゆく。

又曰木根をシ魔と云うる脚ハ木と云うる常ニ有
リ魔をうくる時モ魔ニ名と被くうかと云ふる
ミホセ。これと云ふて、シ魔のと云ふ里言と云ふてあは。
乃ハトモカツヤリトモ。と云ふ脚木ともシ魔と
アリ。木と木と木と木と木と木と木と木と木と
のと木と木と木と木と木と木と木と木と木と
のと木と木と木と木と木と木と木と木と木と

木と木と木と木と木と木と木と木と木と木と木と

私云若國おこら無事と云ふ事と云ふ事と

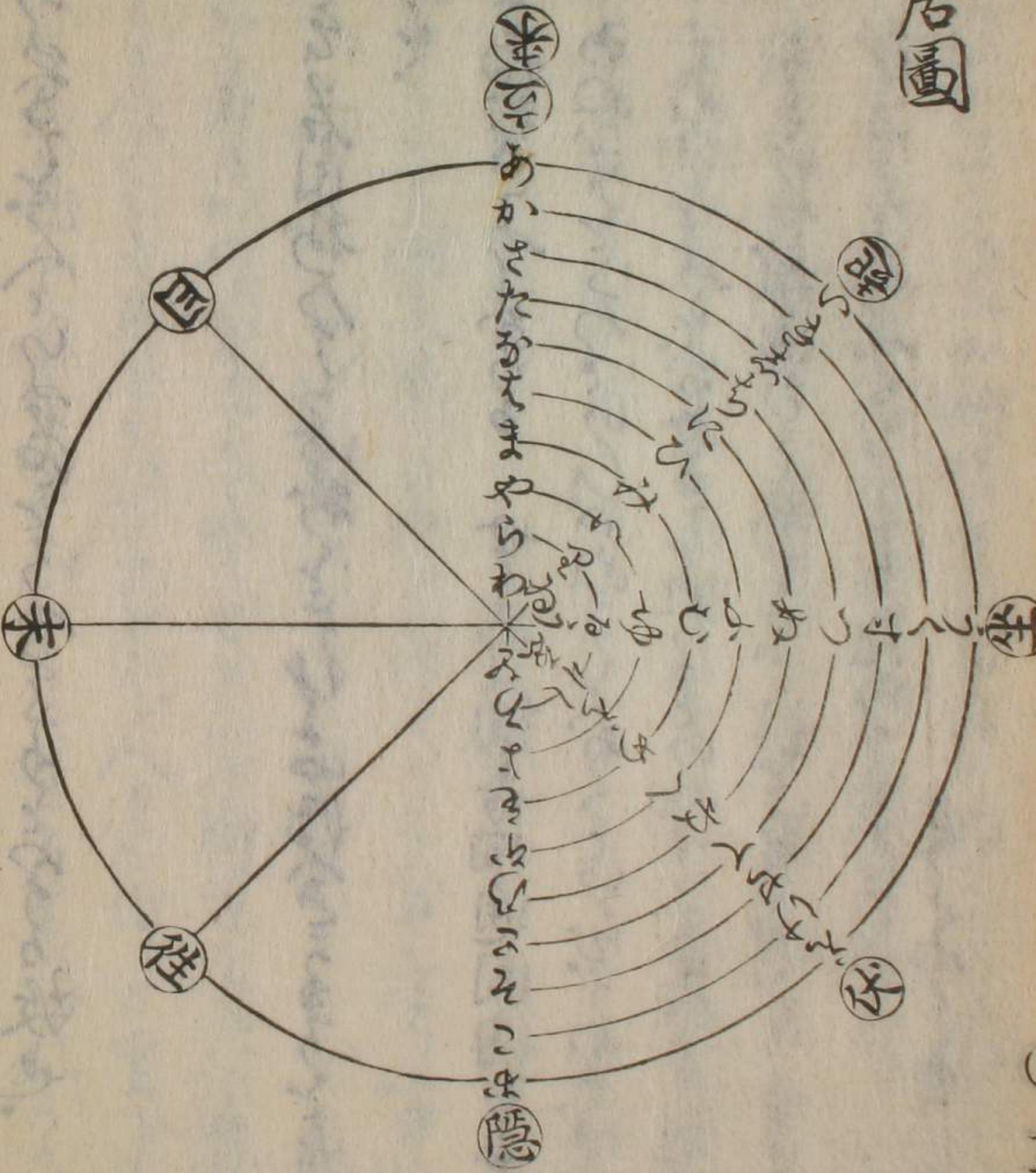
有也。

一うちある事すつある。サレヒ國音相通國内有事也。
あわざと云ふと云ふ。おなきと、おこりと云ふねがひも。
えぬきと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと
云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと
云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと
云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと

刀と云ふ事。

經緯圖

立居園



一六連
國廟より先仁を宣わせんと仰はる
上院より其後より北山院が世話を二年と
ゆびりとつゝ後向川後院をもて而七年と中
多とす。西條院が世を、八年と迎へりとす。
松花園院御世をまことにすと、とくとくとく
のちと今後也とす。

のうと今泊ます。
一かとま
せりは上句下句も
一かぬや 世をすまし細や
一ゆきあ
せりはありあり也。うよともてお
ゆとがまのまこと。ゆめいと。ゆれわと。まくとも
りゆくまつ。

一か月をあてて 不倫のゆひ又うそとせむ
うらあらかくすまうらめく

升平年中
有司奏曰

三事乃平野より野山あるもしあととちあまといふ。
かうす、萬の去あり。日花すむしのまことかうす
とくよ上す。

一がわらそも やがれごとくはながわらす。重若とも山浦
かどとおぬきは紫あざきくくもりあひとわくも
うくよをとくひゆ。

一火水の詞 せまつてよみがへりまつてよみがへり

かうじとくは詞也。又えみの詞也。

一内外の詞 世には有情非情あり。内とも有情と云外
とも非情ゆ。又非情ありとも有情するていの附
はは因より。而後は條きほのすこひつひくとく。

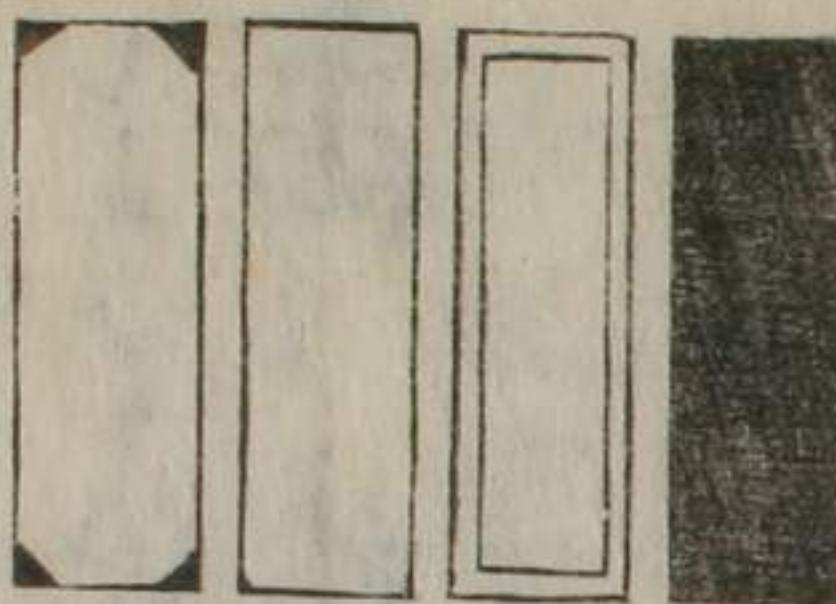
一裏表乃詞 裏をもとよせうて上方が。表をもとよせ下
かうす。但人物事事ぬくすもあつてくうれひ
あうてひく。只素が。而後もくづく。

一固念じぬやう

條あり

屬家倫育陽乃名あり

かうじあひじ也



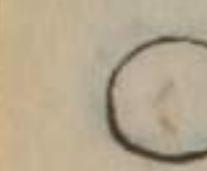
里言す



古事記すとよそじ文也



めくろてゆるあひす



わからうつるは黒也。ひもつゆく御也

御也

○ えりあひよつとるを里に加てゆき
一 ふりき らうるわろりつなり
一二作例 正例をあらひ。裏例をさへたまひ。類例
とうりゆもすれあどきよ。
一 神廟 神の能よもやハ所カツ

安永二年六月

吉川彦宣
井上義胤 同識

脚結五部
凡五十名
五屬

願

詠

十九家

禁疑

曾毛志良

余利

仁乎乃

能羨

邊止波

陁尔

碁登

毛天

加天良

六倫

加保

那加良

有可

十二身

去不

将来

氐也留

由久

咩利

八隊

十為

如被

義
加之
八多

久
奈倍
加天

外
母乃

卷之二
大德元年
正月

